

第 1 ・ 2 学 年 算 数 科 学 習 指 導 案

授業者 教諭 野村 圭一

【第 1 学年】

- 1 単元名 たしざん (1)
- 2 目標 加法の意味と用いられる場を知り、和が10までの加法の計算の仕方がわかり、和を求めることができる。
- 3 本時案 (第1次 2/2)
 - (1)主眼 加法の意味(合併)がわかり、式表現をして計算することができる。
 - (2)準備 赤白の玉 プリント
 - (3)学習過程

【第 2 学年】

- 1 単元名 大きい数 (1)
- 2 目標 1000までの数について、十や百を単位として大きさをとらえ、十進位取り記数法による数の読み方や表し方ができる。
- 3 本時案 (第1次 1/2)
 - (1)主眼 100より大きい数について、十や百のまとまりをつくりながら数え、3位数の構成と表し方がわかる。
 - (2)準備 赤白の玉 プリント
 - (3)学習過程

前時の学習	2つの数量の合併の場面を話にまとめて、「+」と「=」を使って式表現をした。			
	教師の支援			学習活動・内容
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールを確かめて、2年生と一緒に仲良く活動させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">あわせて なんこに なりますか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「たしざん」の意味とやり方を想起させる。 ○ 誰が一番多いかの見当をつけさせて、見積もりをしながら計算する習慣づけにつなげる。 ○ 自力で答えを求めづらい児童には実際に玉を数えさせたり、おはじきでイメージ化させる。 ○ 「しき」「こたえ」という用語を押さえながら、各自のやり方を確かめていく。 			<ol style="list-style-type: none"> 1 玉入れゲームをする。 赤玉□個 白玉□個
			過程	
			過程	
				<ol style="list-style-type: none"> 2 式に表して、自分や友達の玉の数を計算によって求める。 $\square + \square = \square$ 3 表した式をお話で表現する。 「赤い玉□個と白い玉□個を合わせて□個になります」 4 練習問題をして、本時をふり返る。
次時の学習	加法の意味(増加)を知り、式表現をして計算をする。			

- (4)評価 合併の意味を正しくとらえて、的確に答えを求めることができたか。(活動4)

前時の学習	100までの数について、十のまとまりを作って数えるとともに、身の回りにある3けたの数を見つけた。			
	教師の支援			学習活動・内容
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ルールを確かめて、1年生をリードしながら仲良く活動させる。 ○ 1年生との数え方のちがいを押さえさせる。 ○ 数える前に見当をつけさせる。 			<ol style="list-style-type: none"> 1 玉入れゲームをする。 1個10点 全員で何点になるか？ 2 教科書の魚の数を数える。 ・10のまとまりを作る <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0; text-align: center;">10のまとまりが10集まったものをどう表しますか？</div> <ul style="list-style-type: none"> ・100のまとまりを作る <ol style="list-style-type: none"> 3 3位数の表し方をまとめる。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 5px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">百の位</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">十の位</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">一の位</div> </div> 4 プリントの子ども数を数えて、本時をふり返る。
			過程	
			過程	
				<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分なりのやり方を発表させ、いいところを話し合わせる。 ○ 10と同様に「100のまとまりがいくつ」という考え方をすることに気づかせる。 ○ どうして10ずつがいいのか(いきなり100を数えるのはいけないのか)についても考えさせる。
次時の学習	空位のある3桁の数の表し方を知る。			

- (4)評価 100のまとまりのよさに気づいて、3位数を表そうとしていたか。(活動3)